

JSR 株式会社
2018 年 3 月期決算 決算補足説明電話会議 議事録
(2018 年 4 月 25 日開催)

決算補足説明資料:

http://www.jsr.co.jp/pdf/ir/h30_2018/h30_3_h_d44h.pdf

P2

2017 年度のハイライト数字です。

国際財務報告基準、IFRS ベースの数字となっております。前年度の数字も IFRS ベースに修正した数字でございます。

- ・ 2017 年度は対前期、増収増益となりました。
- ・ 2017 年 10 月に上方修正しました年度ガイダンス数値に対しても、若干上回る着地となりました。

・ エラストマー事業は、第 1 四半期に売買スプレッドの改善による増益、第 3 四半期に販売数量増加による増益がございまして、利益を前期から大きく増やしております。

- ・ 合成樹脂事業も、販売好調でございまして、増収増益でございました。
- ・ 多角化事業は増収でございましたが、営業利益は前期並みでございました。

半導体材料事業は、好調な事業環境に支えられ、加えて、主要な顧客で販売を増やしたこともあり、増収でした。

ディスプレイ材料事業は、液晶パネル生産が拡大している中国を中心に販売拡大をすすめましたが、売上収益はやや減少いたしました。

その他では、ライフサイエンス事業は、KBI バイオフィーマの販売数量拡大や診断試薬材料の伸長により売上収益を伸ばしました。

P4

- ・ 2017 年度の連結損益でございます。
- ・ 売上収益は 4, 219 億円、対前期 + 9% の増収でございました。3 事業とも売り上げを増やしております。
- ・ 売上原価は、販売増加や原材料価格の上昇などによりまして増加しておりますが、対前期 + 7% と売上収益よりも低い増加率に留まりました。売上原価率は前期の 70% から 69% へ 1% 低下しました。
- ・ 売上総利益は 1, 301 億円 + 12% の増加でございました。
- ・ 販売費・一般管理費は 870 億円、+ 6% の増加でございました。人件費や試験研究費

が増加いたしました。

- ・営業利益は、その他の営業収益・費用と持分法投資損益を足し引きしまして、436億円となりました。対前期+76億円+21%の増益でございました。

売上高営業利益率は、前期の9.3%から10.3%に上昇いたしました。

- ・金融収益費用は利益側に26億円となりまして、前期から少し改善致しました。

- ・法人所得税を引いた当期利益は350億円となりました。

- ・さらに、非支配持分の利益を引いた、親会社株主の当期利益は332億円となり、対前期+30億円、+10%の増益でございました。

P5

- ・2018年3月末の財政状態計算書でございます。18年3月末、17年3月末ともにIFRSベースの数字となります。

- ・資産合計は、6,477億円となりまして、前期末から+692億円増加しております。増加のうちには18年3月末が金融機関休日であった影響、約100億円の増加が含まれております。

- ・流動資産は、前期末から+138億円の増加でございます。

金融機関休日影響のほか、棚卸資産の増加がありまして、増加しております。

- ・非流動資産は、前期末から+554億円増加しております。

- ・有形固定資産は、ハンガリーのSSBR工場建設や、ライフサイエンス事業での投資、JSRの研究施設建設などにより増加しております。のれんは細胞株構築受託会社Selexis SAの買収などにより増加しました。

- ・また、「その他」は、保有株式の評価額上昇により増加しました。

- ・負債は、2,361億円となり、前期末から+340億円増加しました。

- ・流動負債は、+149億円増加しております。金融機関休日の影響などがございます。

- ・借入金は長期短期合計で+173億円増加しています。海外子会社の借入増でございません。

- ・資本は4,116億円で、+353億円の増加でございました。

- ・親会社の所有者に帰属する持分は、純利益による増加、有価証券評価差額金の増加に、配当による減少を足し引きしまして、+316億円の増加でございました。

- ・期末の自己資本比率は、60.8%になっております。

P6

キャッシュ・フロー計算書

・営業活動によるキャッシュ・フローは、税前利益と減価償却費は増加しましたが、税金支払いのタイミングにより、「その他」の支出が、前期に比べて多かったため、全体ではほぼ前期並みの436億円となりました。

・投資活動によるキャッシュ・フローでは、設備投資額373億円と前期比42億円増加しています。ハンガリーのSSBR工場やライフサイエンス事業での投資などがございます。「その他」は、M&Aによる支出がありまして、133億円の支出となっています。手元資金運用の大きな変動もございました。

・財務活動によるキャッシュ・フローでは、配当金は111億円ございました。その他は借入による増加でございます。

P7

エラストマー事業

・主要需要業界の状況としまして、タイヤ市場の状況は、国内は前年比+1%、世界では前年比+3%の伸びとなっております。

YoY

・エラストマー事業の販売数量は、SSBRは+6%数量を伸ばしましたが、事業全体では678千トンに留まり、対前期18千トンの減少でございました。国内向けは前期並みでしたが、輸出が減少し、全体では前期比で減少となりました。

・売上収益は1,974億円になりました。販売数量は減少しましたが、販売価格の上昇により+120億円、+6%の増収でございました。

・営業利益は149億円となりまして、対前期+61億円、+69%の大幅増益でございました。特に第1四半期におきまして、前年度第4四半期の原料価格を反映した販売価格改定が想定以上に進み、一方で、原料コストも下がりがまして、利益を大きく押し上げました。第3四半期も好調な利益水準でございました。

QoQ

・販売数量は、SSBRは順調に増加しましたが、全体では減少でございました。売上収益はやや増加しました。

・営業利益は、原料価格上昇による利益スプレッドの縮小や、定期修繕による製品在庫の取り崩し、持分法会社の不振などがございまして、営業利益は大きく減少しました。

合成樹脂事業

・主要需要業界の状況としまして、自動車生産は、国内で前年比+5%、世界では前年比

+4%の伸びとなっております。

YoY

・売上収益は522億円でした。販売数量が伸び、対前期+61億円、+13%の増収でした。国外で車両向けが好調、国内向けも堅調でした。

・営業利益は56億円となりました。販売数量増と価格効果により+17億円、+45%の大幅増益となりました。

QoQ

・販売数量は国内外ともに減少し、売上収益はやや減少しました。

・営業利益は、販売数量減に加え、原材料価格の上昇が利益を圧迫しました。加えて定期修繕による製品在庫の取り崩しの影響もあり、営業利益は大きく減少しました。

P8

Y o Y

・多角化事業の売上収益は、1,724億円、前期比+153億円、+10%の増収でした。特に半導体材料が大きく伸びました。

半導体材料

・シリコンウェハの面積成長は、IHSによると2017年暦年+7%だった模様です。

・当社グループ製品も、ユーザー業界の好調に加え、主要顧客で販売を拡大し、売上収益は対前期+132億円、+21%と大きく伸びまして、754億円となりました。主要製品は全て好調でした。

ディスプレイ材料

・液晶パネルメーカーの稼働率は平均して90%前後でした。大型液晶パネル面積は年+5%増加した模様です。

・当社製品は、パネル生産拡大が続く中国市場向けで販売を伸ばしましたが、販売価格下落の影響がありまして、売上収益は541億円、対前期▲5%となりました。

・品種別では、保護膜絶縁膜等のその他LCD材料が+10%、配向膜材料が横ばいでしたが、着色レジストは減少いたしました。

その他

・売上収益は429億円、対前期+48億円、+13%の増収でした。なかでもライフサイエンス事業のバイオ医薬品の受託事業が伸び、売上収益は大きく増加いたしました。

営業利益

・多角化事業全体の営業利益は、前期比▲2億円、微減ですが、実質的には増益でございます。

前期には、その他営業収支に出資金評価益や事業売却益がありましたが、当期はそれらが

ありませんでしたので、その影響を受け、営業利益は微減となりました。

- ・半導体材料は数量効果により大幅増益でございました。ディスプレイ材料は利益を維持、「その他」はライフサイエンス事業での先行投資によるコスト増などで減益となっております。

Q o Q

- ・対前四半期の売上収益は、▲24億円、▲5%でした。円高影響や春節によるユーザー稼働率の低下があり、減収となりました。

- ・営業利益は▲33億円の大幅減益でした。売上収益減少の影響のほか、円高の影響や、期末に向けての損失計上があり、大幅な減益となりました。

P9

- ・ライフサイエンス事業が拡大してまいりましたので、これまでの多角化事業を、2018年度から、「デジタルソリューション事業」、「ライフサイエンス事業」、「その他事業」の三つに分けて開示することにいたしました。

- ・デジタルソリューション事業は、従来の多角化事業のうち、半導体材料、ディスプレイ材料、エッジコンピューティング材料（アトロン材料、光ファイバーコーティング材料など）をまとめたものでございます。

- ・「その他事業」は、リチウムイオンキャパシタなどのその他事業と次世代研究費等の全社費用でございます。

P10

- ・2019年3月期の業績予想です。

- ・4月のテクノUMGの合併効果、Crown Bioscience International の買収効果を織り込んだ数値としております。

- ・売上収益は4,900億円（対前年+16%増）、営業利益480億円（+10%増）、親会社純利益335億円（+1%増）を想定しております。1ドル=105円の前提でございます。

- ・エラストマー事業は、売上収益1,950億円、営業利益は100億円、減収、減益の予想です。

グローバルな自動車、自動車用タイヤの生産は緩やかに伸びる見込みで、SSBR は販売量を伸ばす計画です。

営業利益は、SSBR の拡販効果はありますものの、2017年度1Qの高い利益スプレッドがその後落ち着いたことや、18年度後半からのハンガリーSSBR 工場の固定費負担により、減益になる見込みです。

・合成樹脂事業は、テクノUMGが4月に発足しました。合併前の両社とも好調でしたが、18年度も引き続き市場が堅調に推移する見込みで、高収益を維持する計画でございます。売上収益は1,000億円、営業利益は95億円と、合併効果による大幅な増収増益を見込んでいます。なお、純利益はUMGの持分がございましたので、従来と大きく変わりません。

・デジタルソリューション事業は、増収増益を見込んでおります。

・半導体材料は、好調な市場環境に加え、先端デバイス向け材料の成長により、増収になる見込みです。

ディスプレイ材料は、LCD材料の中国での販売拡大、エッジコンピューティング材料はカメラモジュール、センサー用途で拡大の計画です。

・ライフサイエンス事業は、KBI、Selexis SAに続いて、2018年度にはCrown Bioscience Internationalを買収し連結子会社化する予定です。創薬プロセスを支援する事業を推進し、増収の計画です。損益は黒字となる見込みです。

・なお、2018年度の1株当たり配当金は、10円増配の年間60円としております。